

## 第Ⅳ部 ヴェルディの歌曲&室内楽～ロマンツァ

日時：2013年3月23日(土) 17:00 開演 会場：東京文化会館 小ホール

### ●ヴェルディの器楽作品

「歌のないロマンツァ」は、ヴェルディ 52 歳、充実した中期を迎えた 1865 年に書かれた素朴な味わいのあるピアノ作品。

「弦楽四重奏曲 ホ短調」は、ヴェルディ唯一の弦楽四重奏曲。1873 年にナポリで、プリマドンナの急病により歌劇《アイダ》の上演が延期された際に、わずか 2 週間ほどで書かれた。第 1 楽章の第 1 主題に《アイダ》よりアムネリスの主題が転用されている。

### ●ヴェルディの歌曲

オペラに比してヴェルディの歌曲はその数 30 曲にも満たず、演奏される機会も少ない。しかし興味深いのは、歌曲においてもヴェルディの眼差しが、社会から虐げられた者、見捨てられた者に向けられていることである。

歌曲の中心となるのは 2 冊の《6 つのロマンツァ》という歌集である。最初の《6 つのロマンツァ》(1838 年)は、ヴェルディがまだ 20 代の頃、オペラ界にデビューする前の作品である。シンプルな美しさを持つその旋律は、やがてイタリア最大の歌劇作曲家となる予感を秘めている。ミラノのカンティ社から出版されたが、カンティ社からは翌年、続けて 3 曲の独立した歌曲が出版される。その中の 1 曲「逃亡者」は、ソレーラの詩によるもので、逃亡者の鬱々とした感情を歌う。同じく「誘惑」は、見捨てられた不幸な女の末路に同情を寄せる内容のバレストラの詩による。

2 冊目の歌集《6 つのロマンツァ》(1845 年)は、1845 年にミラノのルッカ社から出版された。歌劇《ナブッコ》によりオペラ界で華々しい成功を収め、すでに人気を博していた頃の作品であり、技法も多彩になり、格段の進歩を遂げている。

「哀れな男」は歌劇《マクベス》と同じ 1847 年の作品で、物乞いの男が過去の武勇を語るマッジョーニの詩による。「ストルネッロ」は、1869 年に書かれた。《リゴレット》や《椿姫》でも台本を担当したピアーヴェが病に倒れ貧窮極まっていたため、ヴェルディはその救済に複数の作曲家たちによる歌曲集を企画した。これはヴェルディが提供した 1 曲で、歌詞の内容は「あなたは私を愛さないというけど、私だってあなたなんか愛してないわ」というもの。音楽も軽妙で、非常にユニークな作品である。